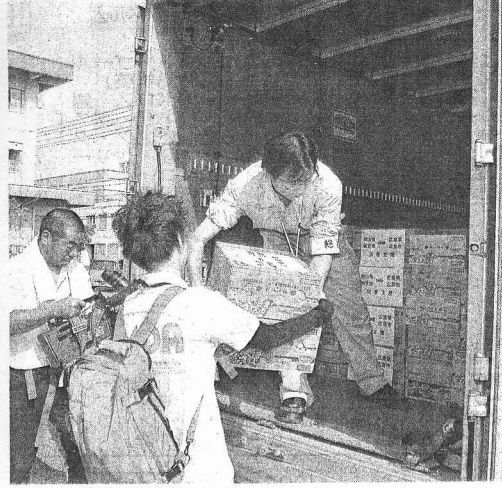


広島被災地へ支援続々

土砂災害 県警や消防、AMDAも

広島市北部で20日未明に発生した大規模土砂災害を受け、県内では21日、関係機関や民間団体が被災地支援に向けた動きを本格化させた。国からの要請などですでに現地入りした県警機動隊や岡山市消防局の支援隊は、不明者の生存率が急低下する「72時間」までの発見を目指し、捜索活動に加わっている。



支援物資をトラックに積み込むAMDAのメンバーら（21日午前、総社市役所で）

2009年に国際医療 NGO「AMDA（アマダ）」（岡山市）と協定を結んだ職員4人とAMDA職員で看護師の山崎梨枝さん（32）の計5人を

宅伸明・総務課長補佐（47）ら市職員4人とAMDA職員で看護師の山崎梨枝さん（32）の計5人を

被災地に向けて出発させた。市役所前で出発式があり、市職員らがトラックに飲料水やカップ麺などの支援物資を積み込み、片岡聡一市長が「危険な任務になるかもしれないが、一人でも多くの人に支援の手をさしのべてほしい」と激励した。三宅さんは「支援物資を確実に被災者に渡したい」と述べ、山崎さんは「少しでも多くの人の力になれば」と話した。派遣チームは、同日午後1時30分頃、避難所になっている広島市安佐南区八木の市立梅林小に到着。支援物資を渡したほか、避難所の保健師や被災者らから、

現地のニーズを聞き取った。総社市などは、今後の支援につなげる方針。県警は20日朝に機動隊員ら16人で構成する広域緊急援助隊とヘリコプター「わしゅう」を現地に派遣。被害の大きい広島市安佐南区で、行方不明者の捜索や被災者の救命・救助活動に当たった。わしゅうは同日中に引き上げたが、隊員らは21日も現地に残り活動している。

岡山消防局は総務省消防庁からの要請で、59人の支援隊を編成。消防車12台や県防災ヘリ「きび」で被災地入りし、行方不明者の捜索などを行っている。現場では重機が使えず、猛暑の中、腰まで泥水につかりながら、スコップなどを使った手作業での捜索が続いているという。21日には連絡・調整要員の県職員1人の同行する2次隊49人を送り、現地のメンバーと交代。

この日午後、市役所そばの公園で出発式があり、大森雅夫市長は「市として最大限の支援をしたい。現場の状況は過酷で、安全には十分気をつけて頑張ってきてください」と述べた。陸上自衛隊三軒屋駐屯地（岡山市）からは20日夜、隊員20人余りが出発。バケットローダと呼ばれる運搬機械やショベルカーなど14台の資機材を持ち込み、人命救助活動に当たっている。

県社会福祉協議会によると20日以降、「ボランティアに行けないか」との問い合わせが数件寄せられており、派遣要請に備える。一地区では、災害ボランティアセンターなどの設置準備調整中という。担当者は「被災地は一刻を争う救命期があるので、県外ボランティアは必要かどうかを含め広島県社協などから要請があるまで、情報を待ってほしい」と話している。